

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療実装化コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医学研究科大学院生, 健康マネジメント研究科大学院生, 薬学研究科大学院生, 一般医師, 看護師, 保健師, 助産師, 薬剤師, 臨床検査技師 等						
修業年限（期間）	1 年						
養成すべき人材像	がんのクリニカルシーケンスや遺伝性腫瘍のパネル検査を通して, 体細胞変異と生殖細胞系列変異との双方を俯瞰することで, 散発性腫瘍および遺伝性腫瘍におけるがんの発生や進展に関わる遺伝子の役割を理解し, 個別化した治療標的を応用するがん治療および予防に貢献可能な人材を育成する。						
修了要件・履修方法	・本教育プログラム・コースで定める科目を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	〈必修科目〉 臨床遺伝学センター カンファレンス(30時間以上)、臨床遺伝学センター実習(60時間以上)、腫瘍センター実習(60時間以上)、エキスパートパネルへの参加(24回以上) 〈選択科目〉 がん関連診療科での実習(360時間以上)						
がんに関する専門資格との連携	臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会）、遺伝性腫瘍専門医（日本遺伝性腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんゲノム医療や遺伝性腫瘍に対する診療を学び、個別化医療およびがん予防を推進できる専門的な人材を育成するため、下記内容を中心に学習する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・バリエーションの標記とその意義を理解する</li><li>・クリニカルシーケンスによる体細胞変異とともに, 潜在する生殖細胞系列変異を理解する</li><li>・コンパニオン診断について理解する</li><li>・がん家族歴聴取と遺伝性腫瘍のリスク判定を学ぶ</li><li>・実際の遺伝カウンセリングに陪席することで遺伝子診療を学ぶ</li><li>・がんゲノムエキスパートパネルに参加してがんゲノム医療を学ぶ</li><li>・個人情報保護や倫理的な配慮について学ぶ</li><li>・チーム医療や多職種連携の重要性を学ぶ</li></ul>						
指導体制	【主たる指導スタッフ】小崎健次郎(臨床遺伝専門医)、武田祐子(健康マネジメント研究科)、西原広史(腫瘍センターゲノム医療ユニット)、増田健太(臨床遺伝専門医)、中村康平(臨床遺伝専門医) 【協力指導スタッフ】浜本康夫(がん薬物療法専門医)、三須久美子(認定遺伝カウンセラー)、植木有紗(臨床遺伝専門医)、後藤優美子(臨床遺伝専門医) これらの遺伝性腫瘍やがんゲノム医療に携わっている多診療科の専門スタッフが連携して指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	【ゲノム医療実用化に携わる医療人】 <ul style="list-style-type: none"><li>・遺伝情報に応じた癌の予防医療の実践ができる遺伝の専門医や専門看護師、カウンセラー、その他のメディカルスタッフ</li></ul> 【専門職獲得に向けた準備】 <ul style="list-style-type: none"><li>・臨床遺伝専門医/遺伝性腫瘍専門医の取得準備</li><li>・がん薬物療法専門医の取得準備</li><li>・遺伝専門看護師の取得準備</li><li>・遺伝性腫瘍コーディネーターまたは家族性腫瘍カウンセラーの取得</li></ul>						
受入開始時期	令和5年9月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	7	7	7	7	7	7	42
受入目標人数設定の考え方・根拠	がんゲノム医療中核拠点病院である慶應義塾大学とゲノム医療連携している病院が現在16ある。それらの病院へスタッフ2名ずつ配置することを目標とし、32名養成する必要がある。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から考慮し、受入れ目標人数を42人と設定。						
履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0						0